

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I 法人の概要（令和5年4月1日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

2 設立年月日

昭和51年3月25日

3 代表者

理事長 津田 純嗣

4 基本財産

2,020,672千円（設立時の基本財産 2,416,798千円）

5 北九州市の出捐金

1,650,000千円（出捐の割合 68.3%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11人	0人	1人	10人
常 勤	1人	0人	1人	0人
非常勤	10人	0人	0人	10人
職 員	62人	6人	0人	56人

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

II 令和4年度事業実績

【概況】

MICE分野では、毎年恒例の自主事業の実施やコンベンションなどの誘致・開催、貸館営業のほか、夏季のにぎわいイベントの実施などに積極的に取り組んできた。令和4年度は、社会経済活動の正常化が進みつつある中、会議・大会等は延べ196件開催され、また施設来場者数も、直近の2年間で大きく上回る71万人を集めた。

観光分野では、観光客誘致・滞在化促進のため、オンライン等を活用しながら、国内外へのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に取り組んだ。国内観光客は令和4年度後半になり回復傾向がみられており、物販等の収益増に繋がっている。

経営面においては、コロナ禍の影響が残る状況下にあって、協会全体が一丸となり事業に取り

組んだ結果、黒字を確保することができた。今後も、新たな事業展開に向けた準備や、コスト管理を徹底し、自立した経営を維持・強化しなければならない。

見本市・展示会事業

1 主催展示会の開催

(1) 概要

◆当協会主催の展示会・見本市事業

事業名	開催期日	入場者数（人）		出展社数（件）	
			(R3実績)		(R3実績)
課題解決EXPO2022	7/6-8	13,749	8,568	36	52
				38	-
				56	52
				23	29
				65	53
				26	23
第44回西日本陶磁器フェスタ	9/15-17	20,579	31,889	228	210
合 計		34,328	40,457	472	419

ア 「課題解決EXPO」の開催

昨年に引き続き、地域企業の課題を解決に導く「課題解決EXPO」を開催した。生産性向上や脱炭素に加え、DXや物流などの新たなテーマに関するセミナー等を実施した結果、来場者数が大幅に増加するとともに、満足度も向上した。

イ 「西日本陶磁器フェスタ」の開催

例年秋に開催している当フェスタも令和4年度で44回目を迎えた。台風の影響で会期を短縮したため、総入場者数は前年比減となったが、1日あたりの入場者数は増加し、会場は多くの陶磁器ファンでにぎわった。

ウ その他事業

◆当協会主催のその他事業

事業名	開催期日	入場者数
泡盛ナイト in いくら	R4年7月26日	100人 (-人)
第27回北九州将棋フェスティバル	R4年9月11日	503人 (-人)
第22回全国俳句大会 in 北九州	R5年3月4日~5日	1,469人 (806人)

※（ ）内は令和3年度実績 なお、俳句大会入場者数の（ ）は事前投句応募者数

(2) 国際ビジネスの推進

ア 「課題解決EXPO」の開催

昨年に引き続き、地域企業の課題を解決に導く「課題解決EXPO」を開催した。生産性向上や脱炭素に加え、DXや物流などの新たなテーマに関するセミナー等を実施した結果、来場

者数が大幅に増加するとともに、満足度も向上した。

イ BEXCO（韓国・釜山国際展示場）とのMOU事業

MOUを締結するBEXCOを3年ぶりに訪問し、次年度の事業計画や主催展示会に関する情報交換を行った。

会議・大会等

2 MICE誘致

(1) 概要

日本政府観光局（JNTO）及び日本コンgress・コンベンション・ビューロー（JCCB）主催の「国際MICEエキスポ（IME）」と連携し、キーパーソン向けMICE誘致活動を行った。

◆MICE開催件数・参加人数の推移 （単位：件）

区分	国際		全国		その他		合計	
	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数	開催件数	参加人数
R4年度	20	2,659	89	19,974	87	20,361	196	42,994
R3年度	1	560	49	22,980	61	11,535	111	35,075

(2) ステークホルダーとの連携

キーパーソンとのネットワーク維持・拡大を図るため、首都圏関係者を対象に「北九州MICE倶楽部首都圏交流会」を、市内関係者を対象に「北九州ローカルホスト交流会」をそれぞれ3年ぶりに開催した。また、当協会と市内ローカルホストが連携して誘致した国際会議が、JNTOの「国際会議誘致・開催貢献賞」を受賞した。

◆JNTO 2022年度「国際会議誘致・開催貢献賞」受賞

- ・会議名：第7回パターン認識に関するアジア会議
- ・ローカルホスト：九州工業大学大学院工学研究院 陸 慧敏（リク ケイビン）准教授
- ・受賞理由：ロボット産業の集積地を目指し、環境都市としての認知がある北九州市での開催に相応しい国際会議を誘致したこと等。

◆令和4年度 MICE開催による経済波及効果

区分	件数	参加人数	経済波及効果
会議・大会等	196件	42,994名	5,231百万円
見本市・展示会	9件	100,548名	8,941百万円
合計	205件	143,542名	14,172百万円

※開催実績の対象は、以下の2つの条件を満たすもの。ただし、展示即売など主に営業目的とするものは除く。

- ①北九州市MICE誘致推進本部事務局（北九州市産業経済局及び当協会）が誘致・開催支援・実施したもの。
- ②北九州市地域以上を参加規模とするもの。

※経済波及効果は、観光庁の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」により算定。

貸館利用者の誘致・営業強化

3 貸館利用者への営業実績

(1) 稼働率改善に向けた取り組み

令和2年度以降中止となっていた案件への営業を強化し、令和4年度は20件の案件が復活した。特に「西日本釣り博2023」は、過去最高の来場者数(33,800人)を記録した。

(2) 新規利用者の開拓及び長期休暇期間中の家族向けイベント等の開催

コンサートや試験催事等の開拓を進め、24件の新規案件を獲得した。また、夏休み期間中の家族向けイベントとして「いきものキングダム in 北九州 FINAL」を開催した。

さらに、北九州市と連携し大規模国際スポーツ大会(ブレイキン in 北九州)を誘致した。

地域連携、広報・宣伝

4 地域連携

JR小倉駅新幹線口の各団体と交流イベントや地域清掃活動等を実施した。また「小倉マップ」を作成し、MICE参加者へ配布する等、地域の活性化等に取り組んだ。さらに、JR小倉駅へのアクセスの良さを生かし、イベント等のPRをJR九州・JR西日本と連携して行った。

5 広報、宣伝

(1) 機関誌・観光関連書籍の発行

北九州観光イベントだより(40,000部)、北九州観光カレンダー(6,000部)

(2) ホームページ等の運営

◆令和4年度 市内観光情報の発信実績

発信元	対象	件数	(R3実績)
ぐるリッチ!北Q州	アクセス数	2,192,137件	1,153,451件
フェイスブック	いいね!件数	12,517件	11,322件
Instagram	フォロワー数	17,442件	15,070件
Twitter	フォロワー数	7,618件	5,209件

管理・運営

6 MICE施設の管理・運営

(1) 利用満足度の向上と情報管理の効率化

利用者からのオンラインやハイブリッド会議に関する要望等に対応するため、ネットワーク機器のリプレースを実施するなど、利用満足度の向上に努めた。また、「施設予約管理システム」を新たに稼働させ、情報管理に関する業務効率を向上させた。

(2) 施設の改修等

施設の老朽化対策や利便性・安全性の向上のため、空調機器等の設備改修を行った。

(3) 各施設の稼働率及び入場者数

◆令和4年度 利用実績

施設	件数	(件)	稼働日数	(日)	稼働率	(%)	入場者数	(万人)
		(R3実績)		(R3実績)		(R3実績)		(R3実績)
西日本総合展示場本館	55	24	237	333	68.7	91.5	32	17
西日本総合展示場新館	160	121	277	233	78.0	65.6	34	25
北九州国際会議場	595	471	334	301	94.4	83.8	5	3

7 指定管理

指定管理期間の4年目となった令和4年度は、指定管理計画に掲げた目標のうち、コンベンション誘致件数と会議場稼働率は目標を達成した。

◆令和4年度 指定管理実績

区分	目標値	実績値
来場者数	96万人	71万人
コンベンション誘致件数	250件	256件
施設稼働率	本館：70.0%	本館：68.7%
	新館：80.0%	新館：78.0%
	会議場：90.0%	会議場：94.4%

観光客の誘致及び滞在化の促進

8 観光客誘致及び滞在化促進

(1) 夜景及び産業観光資源を生かした事業展開

日本新三大夜景都市ブランドと産業観光資源を活用した新たな市内観光モデルコースの作成や、工場夜景ナビゲーターの派遣などの夜型観光促進事業を実施した。また、国際観光の推進のため、インバウンドツアーに対する助成等を行った。

(2) 修学旅行誘致助成事業

修学旅行誘致のため、市内宿泊を伴う旅行等に対する助成事業に取り組んだ。

・令和4年度助成実績：延べ55校、6,340名

観光に関する人材の育成及び啓発

9 観光人材の育成

(1) 観光案内ボランティア

旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのガイド活動を実施した。

・令和4年度ガイド件数・人数：699件、12,295名

(2) 北九州観光市民大学

本市の観光や歴史、文化等の学びを目的に、北九州観光市民大学を開講した。令和4年度は27名の参加があり、そのうち、14名が新たに観光案内ボランティアに登録した。

特産品の紹介・宣伝

10 特産品の紹介・宣伝

オンラインショップや臨時売店を通じて本市特産品の販売・PRを行った。また、「北九州土産品セット」や「北九州ギフトセット」等を開発し販売した。

観光に関する施設の管理運営

11 観光施設の管理・運営

(1) 観光案内所

ジ アウトレット北九州内に「北九州市観光案内カウンター」を新規開設した。また、JR小倉駅の北九州市総合観光案内所が、外国人観光案内所の最高水準となるカテゴリ-3に認定された。

(2) 土産品・特産品売店

門司港レトロ地区における主力の観光物産店である「北九州おみやげ館」や、小倉北区の「TOTOミュージアムショップ」を管理運営し土産品の紹介・販売を行った。

(3) JR小倉駅JAM広場、JAMビジョン

JR小倉駅3階在来線改札口前のJAM広場において、本市関連の催事をはじめ、北九州圏域の観光物産展やにぎわいづくりのイベント誘致に取り組んだ。また、同広場の大型映像装置「JAMビジョン」をリニューアルし、市政情報や観光情報、広告に関するCM等を放映した。

Ⅲ 令和4年度決算

1 貸借対照表(総括表)

令和5年3月31日現在(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	830,304,408	806,733,422	23,570,986
売掛金	11,217,618	8,237,197	2,980,421
未収金	49,599,692	50,902,205	▲ 1,302,513
棚卸資産	3,975,634	3,640,900	334,734
貯蔵品	555,913	387,088	168,825
前払金	815,954	1,056,823	▲ 240,869
立替金	0	1,189	▲ 1,189
仮払金	21,142,829	14,515,379	6,627,450
流動資産合計	917,612,048	885,474,203	32,137,845
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	269,425,048	305,887,248	▲ 36,462,200
建物付属設備	1	1	0
構築物	4	4	0
機械及び装置	13,062,111	10,730,808	2,331,303
基本財産引当資産	761,421,301	761,341,290	80,011
減価償却引当資産	976,763,595	981,176,180	▲ 4,412,585
基本財産合計	2,020,672,060	2,059,135,531	▲ 38,463,471
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	184,758,193	180,084,504	4,673,689
減価償却引当資産	5,964,822	9,374,822	▲ 3,410,000
目的事業引当資産	625,112,525	625,112,525	0
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	192,000,000	192,000,000	0
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
特定資産合計	1,090,485,540	1,089,221,851	1,263,689
(3) その他固定資産			
建物	3,191,770	3,421,765	▲ 229,995
建物付属設備	313,212	381,006	▲ 67,794
構築物	1,553,787	902,238	651,549
車両運搬具	579,271	1,184,691	▲ 605,420
什器備品	3,831,908	5,666,897	▲ 1,834,989
機械及び装置	987,145	1,326,990	▲ 339,845
ソフトウェア	31,978,929	25,073,961	6,904,968
リース資産	52,480,470	0	52,480,470
繰延税金資産(長期)	6,448,000	5,899,000	549,000
その他固定資産合計	101,364,492	43,856,548	57,507,944
固定資産合計	3,212,522,092	3,192,213,930	20,308,162
資産合計	4,130,134,140	4,077,688,133	52,446,007

Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	4,610,504	3,946,278	664,226
未払金	91,094,167	122,117,205	▲ 31,023,038
前受金	64,434,021	50,341,926	14,092,095
預り金	27,127,884	16,978,491	10,149,393
仮受金	242,281	177,400	64,881
未払法人税等	24,462,300	26,215,800	▲ 1,753,500
賞与引当金	13,380,768	12,626,733	754,035
流動負債合計	225,351,925	232,403,833	▲ 7,051,908
2. 固定負債			
退職給付引当金	184,758,193	180,084,504	4,673,689
リース債務	52,480,470	0	52,480,470
預り敷金	600,000	600,000	0
固定負債合計	237,838,663	180,684,504	57,154,159
負債合計	463,190,588	413,088,337	50,102,251
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	756,000,000	0
展示場設備受贈益	255,171,540	278,411,670	▲ 23,240,130
基本財産運用益	5,421,301	5,341,290	80,011
指定正味財産合計	1,016,592,841	1,039,752,960	▲ 23,160,119
(うち基本財産への充当額)	(1,016,592,841)	(1,039,752,960)	(▲ 23,160,119)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,650,350,711	2,624,846,836	25,503,875
(うち特定資産への充当額)	(1,004,079,219)	(1,019,382,571)	(▲ 15,303,352)
(うち特定資産への充当額)	(905,727,347)	(909,137,347)	(▲ 3,410,000)
正味財産合計	3,666,943,552	3,664,599,796	2,343,756
負債及び正味財産合計	4,130,134,140	4,077,688,133	52,446,007

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日（単位：円）

	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	6,967,581	10,515,807	▲ 3,548,226
展示場設備受贈益	23,240,130	23,240,130	0
特定資産運用益	2,096,057	2,101,500	▲ 5,443
受取会費	8,057,500	8,376,500	▲ 319,000
事業収益	726,763,165	602,017,367	124,745,798
受取補助金等	297,578,350	362,273,537	▲ 64,695,187
受取負担金	57,189,194	47,774,395	9,414,799
雑収益	11,085,365	13,055,430	▲ 1,970,065
経常収益計	1,132,977,342	1,069,354,666	63,622,676
(2) 経常費用			
事業費	1,071,653,478	1,014,822,308	56,831,170
管理費	11,906,688	15,014,311	▲ 3,107,623
経常費用計	1,083,560,166	1,029,836,619	53,723,547
当期経常増減額	49,417,176	39,518,047	9,899,129
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	1	0	1
当期経常外増減額	▲ 1	0	▲ 1
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	24,462,300	26,215,800	▲ 1,753,500
法人税等調整額	▲ 549,000	▲ 515,000	▲ 34,000
当期一般正味財産増減額	25,503,875	13,817,247	11,686,628
一般正味財産期首残高	2,624,846,836	2,611,029,589	13,817,247
一般正味財産期末残高	2,650,350,711	2,624,846,836	25,503,875
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	4,117,992	4,008,708	109,284
一般正味財産への振替額	27,278,111	27,168,830	109,281
当期指定正味財産増減額	▲ 23,160,119	▲ 23,160,122	3
指定正味財産期首残高	1,039,752,960	1,062,913,082	▲ 23,160,122
指定正味財産期末残高	1,016,592,841	1,039,752,960	▲ 23,160,119
III 正味財産期末残高	3,666,943,552	3,664,599,796	2,343,756

IV 令和5年度事業計画

1 総論

【協会の活動】

当協会では、MICEと観光の両事業を併せ持ち、「小倉駅新幹線口コンベンションゾーン」のMICE3施設の一体的・有機的な管理運営を行うとともに、MICE事業と観光事業との連携による効果的な情報発信機能を有しており、大きな強みとなっている。この強みを生かし、当協会のミッションである「国内外からの観光客の誘致・滞在化を促進する観光事業の推進」、「日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的運営とグローバル志向のMICEの誘致・支援」に取り組み、「都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献し、国内外から選ばれるまちを目指す」ことをビジョンとして掲げる。

当協会ではこのミッションを果たすため、次の活動方針に基づき、各種事業を展開していく。

(1) 主催展示会事業の強化

- ・自主事業での先端技術情報の発信、製造技術を中心とした商談会による開催販路拡大支援の強化、「DX」「物流」「子ども・子育て」等を成長分野と捉えた新規展示会の開発、など

(2) MICE誘致の強化

- ・学会のキーパーソンへのフェイス・トゥ・フェイス・マーケティングの強化、商談会等での北九州の魅力の発信、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携、など

(3) 貸館利用者の誘致・営業の強化

- ・ターゲットを絞ったりピーターの利用再開や、長期休暇期間を狙ったエンターテインメントイベントの新規利用者開拓、など

(4) 利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供

- ・利用者・来場者に満足してもらうための、きめ細かいサービスの提供や、快適な施設の運営、イベント会場でのおみやげ物販コーナー設置や観光情報の提供、など

(5) 情報発信・受入態勢の質を高め、観光客誘致を促進

- ・国内旅行客の誘客、インバウンド誘致の強化、地域資源を活用した情報発信力の向上、など

(6) 観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成

- ・観光事業・MICE事業協働による観光資源の活用、まちの魅力向上、など

(7) 業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築

- ・管理運営上の問題解決、職員能力向上のための教育研修の実施、など

(8) 持続可能な施設運営に向けた環境経営

- ・創意工夫による収入確保と経費節減につながるコスト管理、コンプライアンス遵守、リスクマネジメント、など

【指定管理計画の目標実現に向けて】

令和5年度は、西日本総合展示場新館、北九州国際会議場の指定管理期間の5年目（最終年）となる。指定管理施設の活用と、周辺施設や関係団体との連携を最大限に進め、指定管理計画に掲げる目標（令和5年度：来場者数（展示場新館・本館、国際会議場）96万人、コンベンション誘致件数250件など）の達成に向け最大限努力する。

2 各論

主催展示会事業の強化

(1) オンラインの継続活用とフェイス・トゥ・フェイスへの回帰

【告知】＝オンライン【商談】＝フェイス・トゥ・フェイスを重視した展示会を実施する。また、主催展示会事業「課題解決E X P O」「西日本陶磁器フェスタ」を引き続き実施し、地域企業の課題解決や地域経済の活性化を図る。その他、令和4年に実施した小規模展示会(D X 関連)について「物流」分野及び我が国の社会課題である「子ども・子育て」分野への展開を検討する。

(2) 展示会開発に向けた開催業務の効率化と人材育成の促進

展示会運営業務の標準化及び外部委託化を進めるとともに、国際標準規格や開催手法等を学ぶためのプログラムへの参加を通じ、展示会業務に精通した人材の育成を図る。

《令和5年度開催の事業》

事業名		開催期日	入場目標	出展目標
課題 解決 E X P O 2 0 2 3	西日本製造技術イノベーション2023	7月5日～7日	15,000人	60社
	西日本DX推進フェア2023			60社
	エコテクノ2023			100社
	ベンチャー・メッセ2023			30社
	中小企業テクノフェアin九州2023			55社
	第49回ふくおか産業技術振興展			30社
第45回西日本陶磁器フェスタ		9月14日～19日	40,000人	200社
合 計		7事業	55,000人	535社

M I C E 誘致の強化

(1) グローバルレベルでのフェイス・トゥ・フェイス・マーケティング

誘致営業の効果を最大化するため、キーパーソンや学協会、P C O等に対してフェイス・トゥ・フェイスによるマーケティングを行う。また、「北九州市M I C E 倶楽部首都圏交流会」を開催し、首都圏のキーパーソンや学会協会関係者とのネットワーク拡大を図る。その他、オランダ・アムステルダムに本部を置くI C C A（国際会議協会）との連携を継続し、グローバルレベルでの情報収集を行うとともに、J N T O（日本政府観光局）の各種商談会を活用し、国際会議誘致件数の増加を図る。スポーツイベントについても、市内スポーツ団体・体育施設と連携し、大会やその前後に行われる選手・指導者育成会・研修会の関連会議や講演会等の誘致を強化する。

(2) ステークホルダーとの連携

協定を締結する市内4大学（九工大、九歯大、北九大、産医大）と連携し、ローカルホストによる会議開催件数の増加を図るとともに、「北九州市グローバルM I C E 推進協議会」（ホテル、旅行・交通会社、行政等で組織）を通じた「チーム北九州」としての誘致セールス等に取り組む。

(3) 情報発信の強化・PRツールの作成・情報集計のデジタル化

SNSを通じ、日本語・英語で会議開催支援情報を発信する。また、北九州市のSDGs施策をPRするため、ノベルティを作成し誘致の足掛かりとする。さらに、市内イベント情報の集計作業をデジタル化し、作業効率を向上させる。

(4) MICE開催支援制度（助成金・ユニークメニューの提案等）の継続

北九州市MICE開催助成金を効果的に活用し、誘致件数の増加を図りつつ、助成金支援を利用できないインセンティブ旅行関係者に対しては、アトラクション等を代替提供することで、インセンティブ旅行の誘致促進に取り組む。また、アフターコンベンション・メニューとして近代産業遺産やその他観光資源を積極的に紹介し、参加者の満足度を高めるとともに北九州市のイメージ向上を図る。その他、下関地区と連携し、関門地域全体で参加者本位のエクスカーションコースの提供、SDGsについて学び体験できるエクスカーションコースの調査造成や、小倉城、ミクニワールドスタジアム等での新たな演出を交えたユニークメニューの開発に取り組む。

貸館利用者の誘致・営業の強化

(1) 既存利用者（リピーター）の利用再開と新規利用者の開拓に向けた営業活動の強化

既存利用者の利用再開、潜在顧客の掘り起こし等を目的とした積極的な営業を推進するとともに、広報をはじめとする開催支援のさらなる充実を図り、稼働率とサービスの向上に取り組む。

(2) 新しい会場利用価値の創造へ向けた取り組み

利用者本位の施設環境を確保すべく、光回線の新設・増強やWi-Fi回線の強化等による通信環境の充実と、コンサート等の大型エンタメイベントの開催に向けた施設機能（非常口誘導灯、ケーブル配線開口工事等）の改善に取り組む。

(3) 稼働率向上へ向けた取り組み

ゴールデンウィークやお盆、年末年始等の長期休暇期間に集客力のあるイベントを積極的に誘致し稼働率の向上と来場者数の増加に努める。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

当協会ホームページを、ユーザーが使いやすく、情報を見つけやすいものに改修することで、ターゲット層に対するアピール力やマーケティング効果の向上を図る。また、令和5年1月にリニューアルしたJR小倉駅JAMビジョンや、ペDESTリアンデッキ設置のデジタルサイネージ等を積極的に活用し、施設や催事に関する情報を発信することで、視覚的に訴求力の高い広告効果を創出し、顧客の認知度を高める。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅周辺の魅力アップとにぎわいづくりのため、小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携して近隣の関係団体参加型の清掃活動や同会との意見交換会等を実施する。また、魚町商店街に当協会主催事業や誘致した学会・大会等の大型懸垂幕を掲出し、参加者による小倉駅南北間の往来を活性化させる。

お客様満足度の向上

- (1) 快適なコミュニケーションの場の提供
イベント会場における土産品販売及び観光案内エリアの設置等を通じ、利用者同士が交流できる場を提供する。
- (2) 災害による被害の甚大化に対応する防災体制の構築
常時、施設維持管理に細心の注意を払い、不測の事態が発生した際には、職員が速やかに利用者の安全を確保できるよう、適切な防災体制を構築する。
- (3) 施設・設備の改修等
会場カメラ・モニター、電光掲示板、場内美術・照明バトン等の更新（展示場新館）や、LED等の高効率設備の導入や機器の更新による省エネ化及び建物の壁面改修等の美観回復工事（国際会議場）について、市との協議や要望を行いつつ改修に取り組む。
- (4) 展示場本館の対応等
雨漏り防止の抜本的な対策を施すため、屋根構造の大型改修に取り組む。また、大規模改修工事に向けた工事実施計画の立案に着手する。

観光客の誘致及び滞在化促進

- (1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業
関係団体と連携し観光客に役立つコンテンツ情報をPRするとともに、令和5年12月に開催される「北九州国際映画祭」をはじめとした様々なイベントへ、県内外から多くの観光客が見込まれることから、より一層の誘致と滞在化促進に努める。また、東アジア（台湾・韓国・中国）の旅行社を中心にセールス活動を継続し、インバウンド誘致を促進する。
- (2) 修学旅行誘致事業
民間事業者・行政と協力し、SDGsに取り組む施設を周遊するメニューを旅行代理店等に提案することで、修学旅行誘致件数の増加を図る。
- (3) 助成事業
本市に宿泊を伴う修学旅行や旅行商品、また北九州市を代表する祭事に対して助成することで、観光客の増加を図る。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」を活用し本市の魅力を発信するとともにF1層やZ世代に対して、SNSを中心とした観光デジタルプロモーションを行う。また、北九州への観光に興味を持つターゲット層へのリーチ精度向上や実訪問者数の最大化を目指し、検索広告等について研究を進め、広告運用の最適化を図る。

観光に関する人材の育成及び啓発

新たな旅行需要の取り込みに向け、観光客へのおもてなし活動を行う事業者にスポットを当てSNSで紹介し、市民の観光ホスピタリティについて啓発を図る。また、観光ボランティア制度（104名【令和4年4月現在】）を運営するとともに、新たな観光ボランティアの担い手の養成や若年層の

観光知識習得を目的に北九州観光市民大学を開講し、市民の観光マインドを醸成する。

観光に関する施設の管理・運営

(1) 観光案内所等の運営

「北九州市観光案内所運営協議会」を通じ、市内 4 カ所において観光案内所を運営し、国内外からの観光客に対しニーズに合わせた観光情報を提供する。

(2) 産業観光と夜型観光の推進

北九州市、北九州商工会議所と当協会で組織した「北九州産業観光センター」を通じ、世界遺産や工場夜景を核とした「ものづくり観光」のブランド化に取り組み、産業観光と夜型観光を推進する。

(3) 土産品・特産品売店や小倉駅イベント広場等の運営

「北九州おみやげ館」「TOTOミュージアム」での土産品・特産品売店の運営や、小倉駅イベント広場での市・JR主催事業の実施等により、まちのにぎわいを創出する。

特産品の紹介・宣伝

市内外で開催されるイベントや観光物産展へ参加し、北九州市の特産品・土産品を実際に手に取り、購入できる機会を数多く提供する。

V 令和5年度予算

収支予算書(総括表)

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	728,000	500,000	565,000	0	1,793,000
展示場設備受贈益	17,662,000	5,578,000	0	0	23,240,000
特定資産運用益	1,820,000	109,000	0	0	1,929,000
受取会費	10,345,000	0	0	0	10,345,000
事業収益	330,400,000	491,740,000	0	0	822,140,000
受取補助金等	298,927,000	0	382,000	0	299,309,000
受取負担金	29,900,000	42,653,000	0	0	72,553,000
協賛金	500,000	0	0	0	500,000
雑収益	6,559,000	8,068,000	0	0	14,627,000
経常収益計	696,841,000	548,648,000	947,000	0	1,246,436,000
(2) 経常費用					
事業費	773,418,000	440,613,000	0	0	1,214,031,000
管理費	0	0	13,349,000	0	13,349,000
経常費用計	773,418,000	440,613,000	13,349,000	0	1,227,380,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 76,577,000	108,035,000	▲ 12,402,000	0	19,056,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 76,577,000	108,035,000	▲ 12,402,000	0	19,056,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	51,593,000	▲ 56,441,000	4,848,000	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	18,056,000	0	0	18,056,000
当期一般正味財産増減額	▲ 24,984,000	33,538,000	▲ 7,554,000	0	1,000,000
一般正味財産期首残高	1,861,957,558	492,014,982	▲ 48,012,623	0	2,305,959,917
一般正味財産期末残高	1,836,973,558	525,552,982	▲ 55,566,623	0	2,306,959,917
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	565,000	0	565,000
一般正味財産への振替額	17,662,000	5,578,000	565,000	0	23,805,000
当期指定正味財産増減額	▲ 17,662,000	▲ 5,578,000	0	0	▲ 23,240,000
指定正味財産期首残高	171,190,359	54,058,485	761,421,282	0	986,670,126
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	153,528,359	48,480,485	761,421,282	0	963,430,126
III 正味財産期末残高	1,990,501,917	574,033,467	705,854,659	0	3,270,390,043

VI 役員名簿

令和5年7月1日現在

役職名	氏名	備考
理事長	津田純嗣	北九州商工会議所 会頭
専務理事	近藤 晃	(公財)北九州観光コンベンション協会
理事	池永紳也	北九州市産業経済局長
//	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
//	安部高子	北九州商工会議所女性会 会長
//	今崎正明	(一財)九州オープンイノベーションセンター 専務理事
//	廣瀬 香	(一社)九州経済連合会 総務国際部長
//	関 宣 昭	NPO法人里山を考える会 代表理事
//	棟安正人	(株)リーガロイヤルホテル小倉 代表取締役社長(兼)総支配人
監事	吉村知泰	北九州市会計室長
//	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事